

**第2次南アルプス市総合計画
後期基本計画・施策マネジメントシート**

作成日: 令和 3年 7月28日

更新日: 令和 3年10月 7日

政策No.	3	政策名	うるおいと活力のある 快適なまちの形成	施策主管課	観光商工課
施策No.	20	施策名	企業誘致の推進	施策主管課長名	石川 浩
施策関連課名		南アルプスIC新産業拠点整備室			

1 施策の目的と指標

(1) 対象(誰、何を対象としているのか) ※人や自然資源等	→	(3) 対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位
企業		A (RESASによる)市内企業数	社
(2) 意図(この施策によって対象をどう変えるのか)	→	(4) 成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
市内で新たに創業・規模拡大する		① 誘致・規模拡大した企業数	社
		② 創業した数	件
		③	
		④	
成果指標設定の 考え方 (成果指標設定の理由)	①	市内への企業誘致・市内での規模拡大の状況を示す／企業が市内で新たに創業、あるいは市内企業が隣接地の取得などにより規模拡大することが意図であるため、成果指標とした。	
	②	市内での創業の状況を示す／企業が新たに創業することが意図であるため、成果指標とした。	
	③		
	④		
成果指標の 測定方法 (どのように 実績値を把握するか)	①	1年間に誘致・規模拡大した企業数の合計(工場立地法届け出資料)	
	②	商工会に新規創業の相談があり、業務を開始した年間件数(商工会資料)	
	③		
	④		

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	前期基本計画					後期基本計画					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
対象指標	A (RESASによる)市内企業数	社	見込み値				2,080	2,080	2,070	2,070	2,060	2,060	2,060
			実績値	2,216	2,091	2,091		2,091					
	B		見込み値										
			実績値										
	C		見込み値										
			実績値										
成果指標	① 誘致・規模拡大した企業数	社	目標値	-	-	-	-	-	7	7	7	7	7
			実績値	5	4	6	7	2	2				
	② 創業した数	件	目標値	-	-	-	-	-	15	17	19	21	23
			実績値	36	27	18	13	17	11				
	③		目標値										
			実績値										
	④		目標値										
			実績値										
目標設定の考え方・理由(可能性と必然性)													
①	成り行き値は、過去の平均を基に5社と設定。後期基本計画では、産業立地進出用地造成計画の見込みや、積極的な企業誘致活動による新たな企業の誘致を見込み、目標値を毎年度7社に設定した。												
②	成り行き値は、H30年度の実績値により設定。商工会へ新規創業の相談はあるものの、創業にした件数は減少している。後期基本計画では、産業構造の拡大、雇用の場の確保による経済効果の影響を視野に入れながら、目標値は毎年2件を加算し、R6年度に23件に設定した。												
③													
④													

3 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> 事業所は地域への貢献、地元雇用への優先、環境への配慮に努める。 市民(地域)は、立地企業の活動に対する地域ぐるみの理解と用地提供等の協力をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業と地域との調整(企業と地域の要望の把握と対応)、税の優遇措置、立地助成等の支援、環境整備(土地利用計画の策定、用途地域の規制緩和等)、用地の確保を行ない、企業が進出しやすい環境をつくる。 山梨県や南アルプス市商工会との密な情報交換により、企業立地を推進し、産業振興に繋げる。

4 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～R6年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<ul style="list-style-type: none"> 中部横断自動車道の全線開通、リニア中央新幹線の開業により進出企業の増加が期待でき、交流人口の増加と共に地域経済活性化が見込まれる。特に、南アルプスインターチェンジ周辺については、将来的な交通の要衝として地域経済の活性化につながる産業の創出が必要になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 県外へ進学した大学生がリターンせず、市外へ流出していく傾向があり、人口対策・経済活性化策として企業等の誘致を推進し、雇用の場の確保を望む声がある。 環境に配慮した企業立地を望む市民からの声がある。 遊休農地の活用策について、企業向けの土地への提供などを望む意見がある中で、農地との利用調整が求められる。 「企業と地元の調整機能の強化」「積極的に地元雇用と若者に魅力ある企業の誘致」が求められる。

5 予算等の推移

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

区分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
関連事業本数	5	6			
関連事業予算額(単位:千円)	112,294	141,410			
(予 算 額 の 内 訳)	国庫支出金	0	0		
	県支出金	0	6,200		
	地方債	0	0		
	その他	55,000	55,900		
	一般財源	57,294	79,310		

(1)目標達成度(目標値との比較)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> どちらかといえば目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標どりの実績値だった <input type="checkbox"/> どちらかといえば目標より低い実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標より低い実績値だった		成果指標①は、市内工業団地に空きがないこと、また新型コロナウイルスによる影響もあり、目標値より少なくなった。 成果指標②は、新型コロナウイルス感染症の影響による景気の停滞などにより、創業をためらうケースも見られ、目標値より少なかった。
(2)時系列比較(どのように変化してきたか)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した <input checked="" type="checkbox"/> 成果がかなり低下した		成果指標①は、平成30年度までは、微増していたが、新型コロナウイルスの影響により、下降している。 成果指標②は、経年で下降しており、さらに今年度は新型コロナウイルスによる影響で創業を控える結果となった。
(3)他団体比較(近隣他市、県・国との比較など)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば高い成果水準である <input type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば低い成果水準である <input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である		2つの成果指標は、自治体により状況が異なるため比較が難しいが、今年度は国内全体が新型コロナウイルスの影響を大きく受けており、2つの成果ともに低くなった。

7 基本計画期間における施策方針

(1)施策の基本方針
<ul style="list-style-type: none"> ・中部横断自動車道の全線開通やリニア中央新幹線の開業を見据え、優良な用地を確保し、積極的な企業誘致活動を展開する。 ・意欲のある人が創業・起業を実現できるよう、商工会と連携して効果的な支援を行う。 ・中部横断自動車道南アルプスインターチェンジ周辺については、新たな雇用の創出や地域経済を牽引する産業の集積を図り、交通環境を活かした新産業拠点を創出する。

8 施策の目標達成のための基本事業の今年度(R3年度)の取組(事務事業)状況・今後の課題と次年度(R4年度)の方針

基本事業	今年度(R3)の取組(事務事業)状況及び今後の課題	次年度(R4)の方針
1 企業の新規進出・規模拡大の推進	新規進出や規模拡大を考える企業の用地需要に応えるよう、工業団地拡張整備事業を進めている。	引き続き工業団地の拡張を進め、優良企業の誘致を推進していく。 地元雇用に結びつく優良企業の誘致を図っていく。
2 創業の推進	市と商工会で作成した「個別支援型創業支援テキスト」などを活用して商工会と連携を図りながら創業を推進する。	市内の小売業者や商店街・店舗数が減少する中、事業者を増やすために創業者支援に取り組んでいく。
3 南アルプスインターチェンジ周辺開発の推進	12haの土地利用方針に沿った事業提案を募り、審査する。 IC周辺における開発可能性を調査研究のためのプロポーザルを行い業者を選定した。今後も土地活用の方針や導入機能の検討を行う。	新産業拠点の創出による地域づくりを目指し、土地利用を整理し、事業構築を図る。 IC周辺における土地利用計画、また実現化方策の検討を行い、拠点都市機能の整備に向けて確度を高めていく。
4		
5		